

ノーベル賞

今年のノーベル賞に二人の日本人が選ばれました。ノーベル生理学・医学賞に大阪大学の坂口先生が、ノーベル化学賞に京都大学の北川先生が選ばれたのです。うれしいニュースです。

坂口先生は、免疫に関する研究が評価されました。少し難しい話になりますが、人間には免疫というものがあります。これは、伝染病や毒素に感染しないようにするものです。だから、免疫があることは自分の身を守る意味ではよいことになるのです。でも、免疫の中には強くなって、自分で作った免疫で自分のことを攻撃してしまうこともあるようです。ここまでは、今までの研究で分かっていました。でも、坂口先生は、その自分を攻撃する悪い免疫から身を守る役割を担う種類のものがあることを突き止めたのです。これは、アレルギーやがんの治療に活用できることが期待されています。

北川先生は、MOF といって無数の小さな穴が規則的にあるジャングルジムのような構造の新しい材料を開発したことが評価されました。その材料に、様々な気体を貯めたり、離したりできることが可能になったそうです。そのため、二酸化炭素を貯めこんだりすることができるのです。これは、地球温暖化を防ぐために活用できそうです。また、水素も貯めこむことができるので、発がん性物質を取り除くことに使うことができることも期待されています。

この二人に共通することは、探究を続けてきたことが成功や発見につながったということです。坂口先生は「自分で興味があることを大切にすると新しいものが見えてくる。ずっと続けると気が付いたら面白い境地に達する」とおっしゃっていました。北川先生は「どんな時も自分の感性を信じること。だれも考えていないことにチャレンジすることが大切。」とおっしゃっていました。そして、お二人とも「基礎研究が大切だ。時間をかけて研究してほしい」と訴えていたことも印象的です。皆さんは、小学校の今は、人生の基礎研究の時期かもしれませんね。